

お知らせ  
(府政・経済同時)

第 26 回 国民文化祭 京都市 実行委員会  
〔取次：京都市文化市民局文化芸術都市推進室  
国民文化祭推進課 TEL:366-1495〕

KYOTO Cross Media Experience 実行委員会  
〔取次：京都市産業観光局産業振興室  
TEL:222-3324〕

京都国際マンガミュージアム  
〔広報担当：中村  
TEL:254-7414〕

## 京都国際マンガミュージアム 特別展 「赤塚不二夫マンガ大学展」の開催について

「第 26 回国民文化祭・京都 2011 マンガアートフェスティバル」及び「KYOTO CM EX 2011(京都シーメックス 2011)」事業の一環として、この度、京都国際マンガミュージアムでは、戦後マンガのみならず時代そのものを牽引してきた天才マンガ家・赤塚不二夫の“再発見”を目的とした特別展「赤塚不二夫マンガ大学展」を下記のとおり開催しますので、是非、ご参加ください。

### 記

#### 1 会 場

##### マンガミュージアム会場

京都国際マンガミュージアム 2階 ギャラリー1・2・3・4 及び館内各所  
(京都市中京区烏丸通御池上る)

##### 二条城会場

元離宮二条城 二の丸御殿台所  
(京都市中京区二条通堀川西入二条城町 541 番地)

#### 2 開催期間

##### マンガミュージアム会場

平成 23 年 10 月 29 日(土)～12 月 25 日(日)

午前 10 時～午後 6 時(入館は午後 5 時半まで)

※ 休館日：毎週水曜日、11 月 24 日(木)

ただし、11 月 2 日(水)、11 月 23 日(水・祝)は開館

##### 二条城会場

平成 23 年 11 月 1 日(火)～11 月 6 日(日)

午前 9 時～午後 4 時 45 分

(二条城の開城時間は午前 8 時 45 分～午後 5 時〔入城は午後 4 時まで〕)



©赤塚不二夫

<参考：開催期間について>

◆第 26 回国民文化祭・京都 2011 マンガアートフェスティバル  
平成 23 年 10 月 29 日(土)～11 月 6 日(日)

◆KYOTO CMEX 2011 マンガミュージアム赤塚不二夫関連イベント  
平成 23 年 10 月 29 日(土)～11 月 27 日(日)

### 3 料 金

#### マンガミュージアム会場

無料(ただし、ミュージアム入場料〔大人 800 円、中高生 300 円、小学生 100 円〕は別途必要)

※ 11 月 2 日(水)は入館料無料。また、11 月 1 日(火)から 11 月 6 日(日)まで、二条城入場券半券提示で、ミュージアム入場料は、大人 640 円、中高生 240 円、小学生 80 円に割引

#### 二条城会場

無料(ただし、入城料〔大人 600 円、中高生 350 円、小学生 200 円〕は別途必要。土・日曜日の市内小中学生は入城無料)

※ 『第 26 回国民文化祭・京都 2011 京都市公式ガイドブック@KYOTO』提示で、国民文化祭期間中(10 月 29 日(土)～11 月 6 日(日))の二条城入城料は、大人 500 円に割引

### 4 展示内容

#### (1) ケンキュー一篇…「第 26 回国民文化祭・京都 2011 マンガアートフェスティバル」事業

##### マンガミュージアム会場

赤塚不二夫の幅広い作品世界を、貴重な資料等で紹介するとともに、マンガというジャンルにとどまらない影響力を、その社会背景などから探ります。また、赤塚不二夫の登場がマンガ史的にいかに重要であったかを、特にギャグマンガの歴史をひもときながら、解説していきます。

##### ①赤塚不二夫のギャグ人生

赤塚不二夫のマンガ作品を、彼の生きた時代に沿って、貴重な資料等で紹介

##### ②「ギャグマンガ」の系譜

赤塚不二夫が確立した「ギャグマンガ」を含む「笑い」を目的とした系譜を紹介

##### ③トリビュート作品

赤塚不二夫にゆかりのある人たちによる、トリビュートイラスト作品を展示

##### 二条城会場

伝統を守りつつも常に新しい表現を探求し続けてきた和泉流狂言師・小笠原匡氏が、赤塚ワールドをテーマに、狂言とイタリアの仮面を使用する即興演劇である「コンメディア・デッラルテ」を融合させた「ネオ狂言」を公演します。

また、赤塚作品をモチーフにした新作アート作品も展示します。

##### ①「ネオ狂言×マンガ×仮面劇～赤塚不二夫の世界～」

・ 出 演：小笠原匡(おがさわら・ただし) 能楽師和泉流狂言方

・ 演 出：小笠原匡

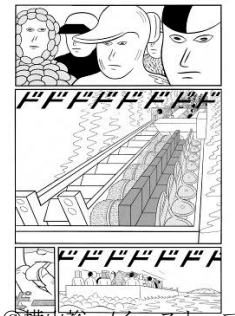
・ 上演日時：平成 23 年 11 月 3 日(木・祝)・5 日(土)・6 日(日)

1 回目：午後 1 時～ 2 回目：午後 3 時～(各回約 45 分)



小笠原匡とコンメディア・デッラルテ研究会

②現代美術家の赤塚りえ子氏と横山裕一氏による、赤塚作品をモチーフにした新作アート作品の展示



©横山裕一/イースト・プレス

(2) ゲージョツ篇…「KTOTO CMEX 2011(京都シーメックス 2011)」事業  
同時代のマンガ家のみならず、様々なジャンルのクリエイターに、  
いまでも影響を与え続けている赤塚不二夫。その赤塚ワールドをテーマ  
に、新たに制作された4人の現代美術家によるアート作品などを、  
マンガミュージアムのいたるところで展示します。

①新作現代アート作品の展示<出品作家(五十音順)> ※ プロフィールは別紙資料を参照

- ・ 赤塚りえ子 (あかつか・りえこ)
- ・ 金氏徹平 (かねうじ・てっぺい)
- ・ パラモデル
- ・ 横山裕一 (よこやま・ゆういち)

赤塚りえ子  
「1,000,000 馬力」



©赤塚りえ子

金氏徹平  
「Teenage Fan Club」



©金氏徹平 photo: eric

パラモデル「paramoderic graffiti」  
(2010 Otani Memorial Art Museum [Hyogo] solo exhibition: The World According to Paramodel)



©paramodel photo: paramodel  
courtesy of MORI YU GALLERY

②過去に創作された赤塚トリビュート作品の展示<出品作家(五十音順)>

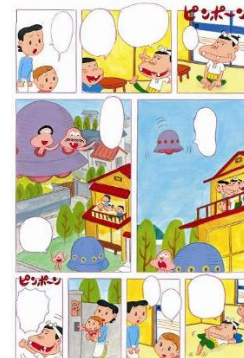
- ・ 朝倉世界一 (あさくら・せかいいち) マンガ家:「天才バカボン」のリメイクマンガ作品(原画)
- ・ 京極夏彦(きょうごく・なつひこ) 小説家: 赤塚キャラの登場するメタ小説「巷説ギャグ物語(赤塚不二夫÷京極夏彦)」
- ・ 五木田智央 (ごきた・ともお) イラストレーター: 赤塚キャラをモチーフにしたイラスト作品「OH! 天国 五木田智央リスペクツ赤塚不二夫」シリーズ(シルクスクリーン)

朝倉世界一「天才バカボン」



©朝倉世界一/イースト・プレス  
©赤塚不二夫

五木田智央「OH! 天国」



©TOMOO GOKITA 2001  
with his respects to FUJIO AKATSUKA

## 5 関連イベント

### (1) 藤子不二雄<sup>㊤</sup>(マンガ家。「まんが道」「怪物くん」作者)トークショー

- ・ 日 時：平成 23 年 10 月 29 日(土) 午後 2 時～午後 3 時 30 分
- ・ 会 場：京都国際マンガミュージアム 1 階 多目的映像ホール
- ・ 料 金：無料(ただし、ミュージアム入場料は別途必要)
- ・ 参加方法：事前申込み不要(先着 250 名)

※ 当日午前 10 時からマンガミュージアム館内にて整理券を配布

藤子不二雄<sup>㊤</sup>「まんが道」



©藤子不二雄<sup>㊤</sup>

### (2) 水野英子(マンガ家)×竹宮恵子(マンガ家)対談

- ・ 日 時：平成 23 年 12 月 17 日(土)午後 2 時～午後 4 時
- ・ 会 場：京都国際マンガミュージアム 1 階 多目的映像ホール
- ・ 料 金：無料(ただし、ミュージアム入場料は別途必要)
- ・ 参加方法：事前申込み不要(先着 250 名)

※ 当日午前 10 時からマンガミュージアム館内にて整理券を配布

※ その他、関連ワークショップ(開催中の土・日・祝日)も開催予定!

## 6 主催等

### ◆ケンキュー篇

- ・ 主 催：文化庁，京都府，京都府教育委員会，京都市，京都市教育委員会，京都国際マンガミュージアム，第 26 回国民文化祭京都府実行委員会，第 26 回国民文化祭京都市実行委員会
- ・ 協 力：フジオプロ

### ◆ゲージュツ篇

- ・ 主 催：KYOTO Cross Media Experience 実行委員会，京都国際マンガミュージアム
- ・ 協 力：フジオプロ

### 【 提 供 可 能 画 像 】

- ※ 本資料及び参考資料内の画像は提供可能画像です。使用の際は、著作権表記が必要です。  
また、キャプションも記載ください。
- ※ トリミング不可

## <プロフィール>

### ◆赤塚不二夫（あかつか・ふじお）

昭和 10 年旧満州国生まれ。平成 20 年逝去。

手塚治虫の「ロストワールド」に影響を受け、マンガ家を志す。昭和 31 年「嵐をこえて」でデビューし、石ノ森章太郎や藤子・F・不二雄、藤子不二雄Ⓔといった戦後の日本マンガをリードするマンガ家が青春時代を送った伝説のアパート「トキワ荘」に入居、仲間達としのぎを削る。

昭和 37 年、「おそ松くん」、「ひみつのアッコちゃん」の連載が開始され、一躍人気作家となる。昭和 42 年、「天才バカボン」の連載が開始、それまでの「ユーモアマンガ」とは一線を画す「ギャグマンガ」というジャンルを確立させる。

早くからプロダクション制を取り入れており、長谷邦夫（「赤塚不二夫 天才ニャロメ伝」）、北見けんいち（「釣りバカ日誌」）、古谷三敏（「ダメおやじ」）、高井研一郎（「総務部総務課山口六平太」）、土田よし子（「つる姫じゃ〜」）といった後のギャグマンガ界の重鎮が在籍していた。

マンガにとどまらず新しい笑いを追及する姿勢をつらぬき、タモリ（タレント）、篠山紀信（写真家）、山下洋輔（ジャズピアニスト）、筒井康隆（作家）といった各界の才人たちとも影響を与え合った。平成 10 年紫綬褒章受章。

### ◆赤塚りえ子（あかつか・りえこ）

昭和 40 年、赤塚不二夫の長女として、東京で生まれる。

平成 6 年に渡英し、平成 10 年にロンドン大学ゴールドスミス・カレッジファインアート科に入学し、在学中から展覧会に参加。平成 14 年よりロンドンのギャラリー「Danielle Arnaud contemporary art」に所属し、現代美術家として国内外で活躍。父の作品をモチーフにした作品も制作している。平成 18 年帰国、フジオプロ社長に就任。

著書に、『バカボンのパパよりバカなパパ』（徳間書店）などがある。

赤塚りえ子  
「1,000,000 馬力」

#### <主な展覧会>

- ・[グループ展]「第 8 回バルティック国際アート・トリエンナーレ」  
（コテンポラリー・アート・センター/リトアニア・ヴィリニウス/2002 年）
- ・[グループ展]「1,000,000 カ ten」  
（ギャラリーくらや/直島/2010 年）



©赤塚りえ子

### ◆金氏徹平（かねうじ・てっぺい）

昭和 53 年京生まれ。現代アーティスト。京都市立芸術大学大学院彫刻専攻修了。

日常にあふれるモノたちを過剰かつスタイリッシュに組み合わせた作風で、次世代を担う現代アーティストとして国内外から注目を集めている。個人での活動の他に、平成 17 年、「横浜トリエンナーレ」にアートユニット「COUMA」のひとりとして参加。

金氏徹平「Teenage Fan Club」

#### <主な展覧会>

- ・[個展]「金氏徹平展 splash & flake」(広島市現代美術館/広島/2007 年)
- ・[個展]「金氏徹平：溶け出す都市、空白の森」(横浜美術館/横浜/2009 年)



©金氏徹平: eric

## ◆パラモデル

林泰彦（昭和 46 年大阪府生まれ。京都市立芸術大学構想設計専攻卒業）と中野裕介（昭和 51 年大阪府生まれ。同大学大学院絵画専攻日本画修了）によるアートユニット。

平成 13 年に活動開始する。平成 15 年にはユニット名を「パラモデル」とし、得意領域や趣向の異なる 2 人が、「パラモデル：世界や心の様々な部品から組み立てる、詩的な模型・設計図」というコンセプトを核に共存、それぞれの立ち位置からの視点のズレや関係性を生かし、「模型遊び」をするように、多様な形式で作品を制作する。タカラトミーの「プラレール」を大量に使用したインスタレーションやワークショップで知られている。

### <主な展覧会>

- [個展]「パラモデルの 世界はプラモデル: THE WORLD ACCORDING TO PARAMODEL」(西宮市大谷記念美術館/兵庫/2010 年)
- [個展]「パラモデル個展：パラモデルの世界は P」(MORI YU GALLERY KYOTO/京都/2010 年)
- [グループ展]「世界制作の方法 / Ways of Worldmaking」(国立国際美術館/大阪/2011 年)

パラモデル「paramoderic graffiti」  
(2010 Otani Memorial Art Museum [Hyogo] solo exhibition : The World According to Paramodel)



©paramodel photo : paramodel courtesy of MORI YU GALLERY

## ◆横山裕一（よこやま・ゆういち）

昭和 42 年宮崎県生まれ。マンガ家、現代アーティスト。

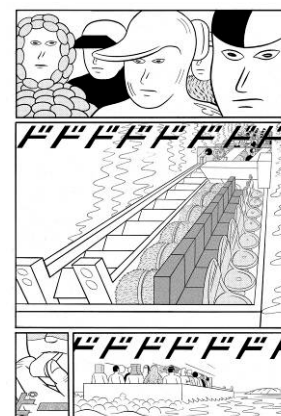
武蔵野美術大学油絵科で絵画を学んだ後、時間を表現できるマンガを描き始める。平成 13 年、『COMIC CUE』で発表された、奇妙な格好をした人物たちが目的不明の土木工事を黙々と遂行するというマンガ作品「ニュー土木」でデビューし、以後、「ネオ漫画」と称される独創的な作品は、国内外問わず、様々な分野においても高い評価を得ている。現在は、現代アーティストとしても活躍中。

マンガ作品に『ニュー土木』『トラベル』（以上イースト・プレス）、画集に『横山裕一カラー画集』（ブルーマーク）などがある。

### <主な展覧会>

- [個展] 神奈川「横山裕一 ネオ漫画の全記録：わたしは時間を描いている」(川崎市市民ミュージアム/川崎/2010 年)
- [グループ展]「六本木クロッシング 2007」(森美術館東/東京/2007 年)

横山裕一「ニュー土木」



©横山裕一/イースト・プレス